

第2回有識者会議でいただいたご意見について

令和7年10月7日

関東地方整備局 河川部

第2回有識者会議でいただいたご意見について

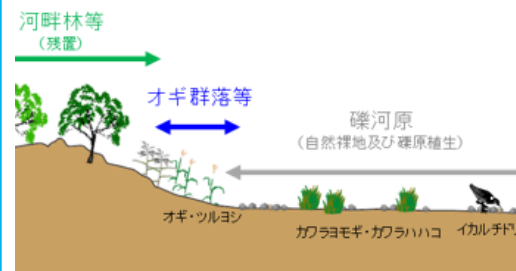
No.	いただいたご意見の概要	考え方
1	河道掘削に当たっては、取水施設にも配慮することを明記していただきたい。	ご指摘を踏まえ、「良好な河川環境の保全と創出や既設の橋梁や護岸、取水施設等にも配慮する」と記載しました。
2	水害リスク情報を不動産業界とも共有するための具体的な取組を記載してほしい。	ご指摘を踏まえ、「床上浸水の発生頻度や人命に関わるリスクの有無などの水害リスクを評価し、地方公共団体、企業及び住民等とホームページ等を通じて水害リスク情報の共有を図る。」と記載しました。
3	大きな出水がきても自然環境が何か所か残りうる形状にできたのか、1回工事をした場所でモニタリングして、その結果をフィードバックしていくことを追加してほしい。	「工事や外来種対策などの実施前後に河川環境のモニタリングを実施し、生息場と生物の利用状況を踏まえて順応的な管理を行う。さらに、河道掘削・順応的管理等で得られた知見を踏まえて、他の区間の施行に反映していく。」と記載しております。
4	「デジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進し」とあるが、具体例を追加してほしい。	ご指摘を踏まえ、「三次元地形データの活用」を記載しました。
5	河道掘削により礫原の植生だとか礫原に生きる生き物の場が残るのか、ほとんど大半が河道掘削になるのか、それとも、ちょっとずつ残っていくのか教えてほしい。	ご指摘を踏まえまして、資料の中の図を修正しました。
6	富士川の特徴である礫河原を残したいと記載しながらも、エコトーンも作りますというような記載になっている。エコトーンの部分が協調されているようなので、書き方を工夫する必要がある。	
7	富士川の横断形状や植生を踏まえた望ましい断面図を作っていく必要がある。	
8	基本方針河道が水平掘削となっており、誤解を招くことが懸念されるので修正してほしい。	
9	水害リスクの図の見方が非常に難しい。想定最大規模では決壊箇所以外からも越水おり、正確には、堤内地盤よりも河道水位が低いので、水が溢れないという意味であるため、付属資料などにつける場合は取り扱いに注意した方がよい。	ご指摘を踏まえまして、資料の中にある説明文等を修正しました。

- 河道掘削などを行う上では、瀬や淵等現状の流路の形状の保全に努め、河道形状の工夫や、発生した巨礫や玉石を可能な限り再配置し、水域も含めた動植物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出を図る。
- 川幅が広い区間においては横断形状を工夫して、冠水頻度に応じた多様な生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出を図る。
- ハリエンジュやアレチウリ等の外来生物や特定外来生物の駆除を行う。

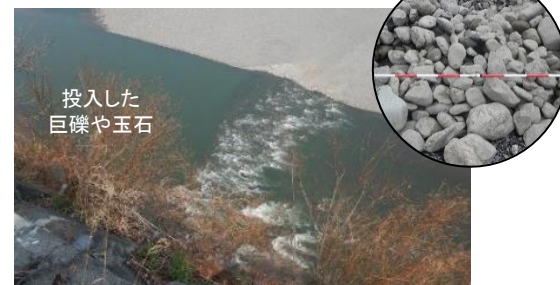
●河道掘削時における環境の保全・創出の考え方



- 川幅が広い区間では、横断形状を工夫して、冠水頻度に応じた多様な生物の生息・生育・繁殖の場をの保全・創出する。



- 発生した巨礫や玉石を可能な限り再配置し、多様な流速の場を創出し魚類の休息場や隠れ場を保全・創出する。



巨礫や玉石配置の実例
施行後には大規模な瀬淵環境が形成されている



- 河道掘削と併せた外来種の駆除を行う
- 高水敷の広範な切下げにより冠水頻度を高め、河川の営力により自然裸地と礫原植生(カワラヨモギ-カワラハハコ群落)が成立する大規模な礫河原を保全・創出する。

- 近隣の良い環境が維持されている区間を参考に勾配を設定

- 現況の縦断形状が良好な時には河床形態等を変更しないようにみお筋や河床は可能な限り保全し連続する瀬淵等の良好な水域環境を保全・創出する。

— 整備計画
— 基本方針

※ 基本方針断面:最終的に河積の確保が必要となる断面積を示しており、この通りに河道掘削を実施する訳ではない

切り下げ

広げる

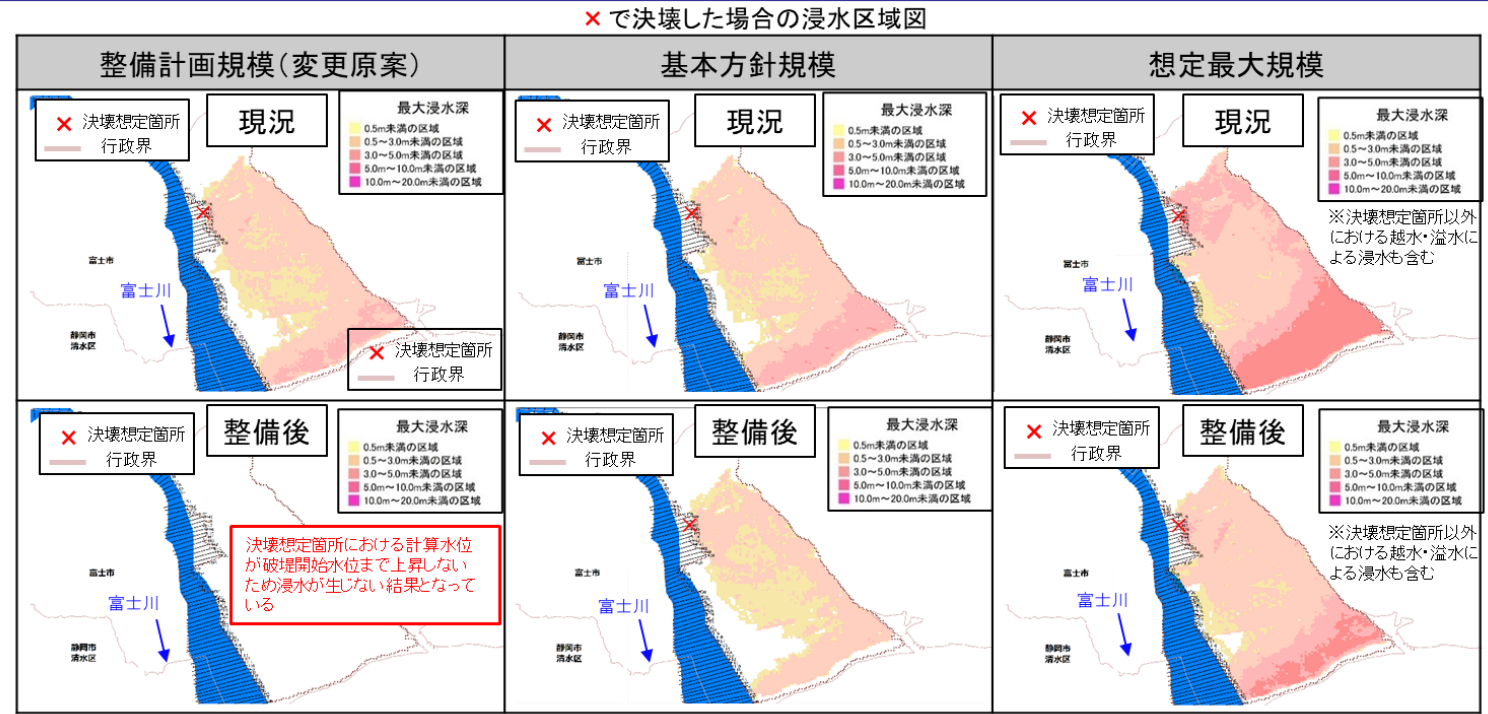
利水や魚類等に必要な水位の確保を図る。

9 水害リスクの図の見方が非常に難しい。想定最大規模では決壊箇所以外からも越水おり、正確には、堤内地盤よりも河道水位が低いので、水が溢れないって意味であるため、付属資料などにつける場合は取り扱いに注意した方がよい。

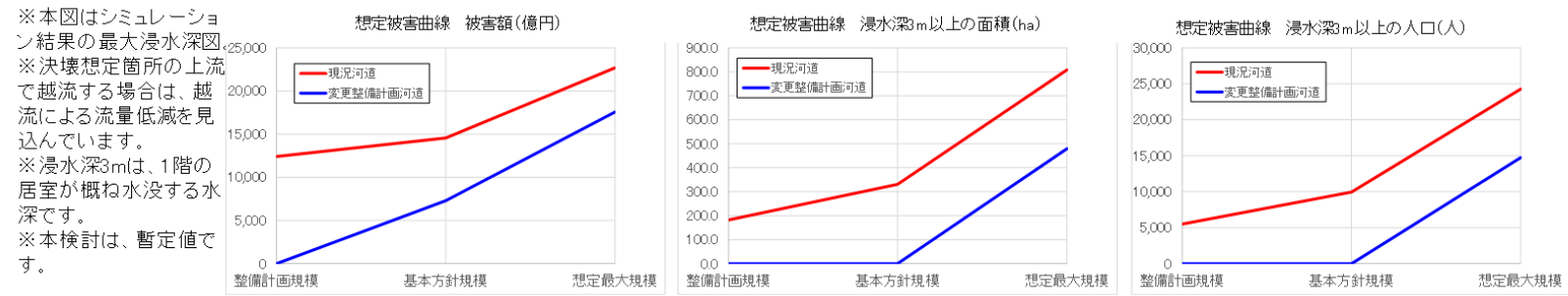
- ご指摘を踏まえまして、資料の中にある説明文等を修正しました。

氾濫シミュレーションの結果

富士川水系



※上記は、決壊想定箇所における計画高水位と各整備段階における堤防高ー余裕高の低い方を破堤開始水位とした場合の氾濫計算結果



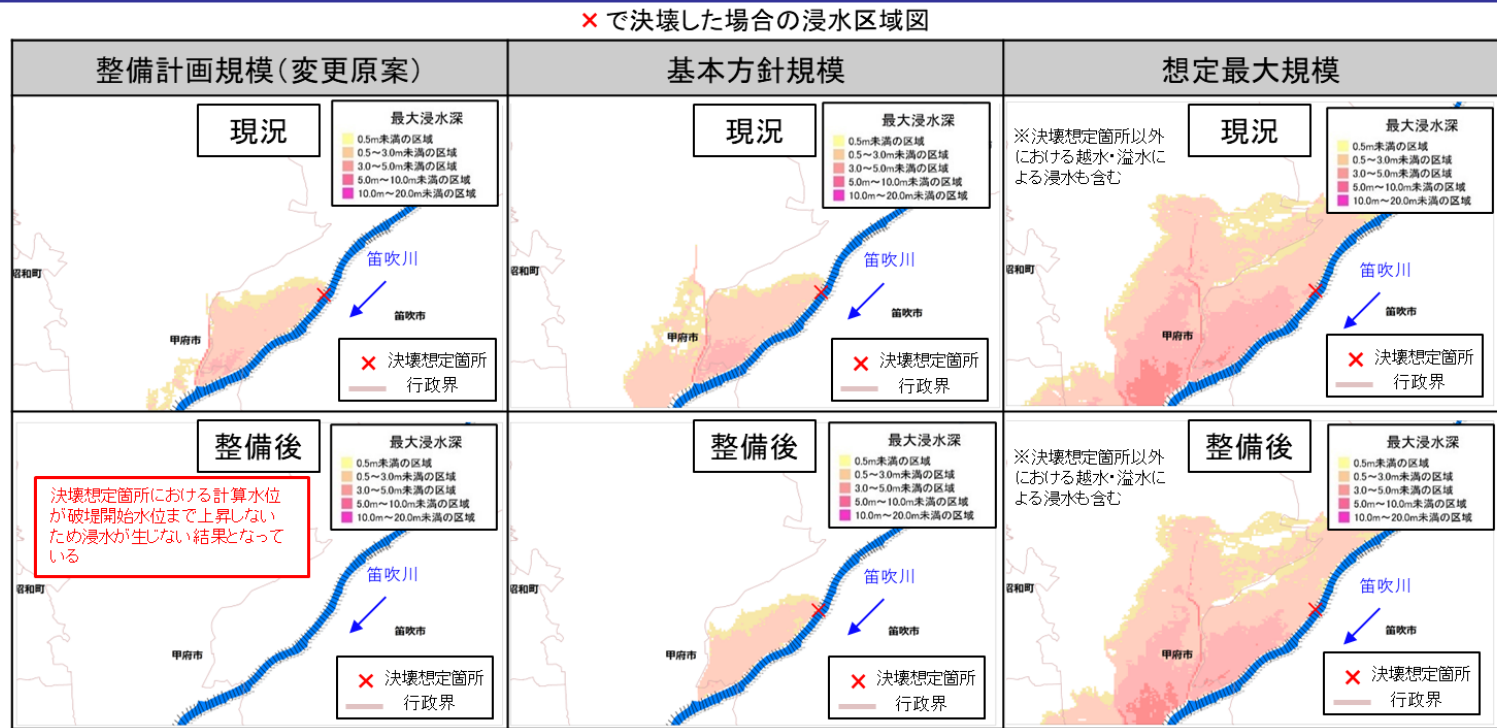
9

水害リスクの図の見方が非常に難しい。想定最大規模では決壊箇所以外からも越水おり、正確には、堤内地盤よりも河道水位が低いので、水が溢れないって意味であるため、付属資料などにつける場合は取り扱いに注意した方がよい。

- ご指摘を踏まえまして、資料の中にある説明文等を修正しました。

氾濫シミュレーションの結果

富士川水系



※上記は、決壊想定箇所における計画高水位と各整備段階における堤防高－余裕高の低い方を破堤開始水位とした場合の氾濫計算結果

※本図はシミュレーション結果の最大浸水深図
※決壊想定箇所の上流で越流する場合は、越流による流量低減を見込んでいます。
※浸水深3mは、1階の居室が概ね水没する水深です。
※本検討は、暫定値です。

